

第1回休眠預金等活用調査アドバイザーグループ会合概要

※ 本概要は事務局により整理したもの
休眠預金等活用担当室

日時：平成29年10月10日（火）15:00～17:00
場所：中央合同庁舎4号館2階共用第3特別会議室
概要：

<議事1 論点整理>

- 程会長代理より、成果に関する議論を出発点として、4つの軸で整理された革新的仕組み・手法について発表があった。
- 白石氏より、「社会課題解決の生態系」を中心とした議論の展開について発表があった。

<議事2 主要論点に関する意見交換>

- 提出資料1に掲げた主要論点をもとに議論がなされた。
- 主要論点のうち評価に関するものは、事務局が審議会において説明する旨、報告された。
- 主要論点の項目は再度整理されることと決定した。

なお、メンバーから出た主な意見は以下のとおり。

- 休眠預金等の活動を通じて、社会課題解決の速度が上がることで究極の成果ではないか。そのためには、社会的リターンの期待値が高い事業分野への資金投入、及び中長期的な持続可能性を見据えた上で進められる支援の仕組み構築の2点が重要。
- 事業の発展段階に応じてポートフォリオを組んで経営支援を行うのが理想であるが、リスクの管理が難しい未発展の案件に対する資金提供については更に議論を深めるべき。
- 経営基盤の安定化や持続可能性の確保がエグジットのひとつの目安ではないか。
- 資金投入の結果、もたらされた社会的インパクトに対する評価、受け手組織がどれだけ成長したかに対する評価、社会課題解決の仕組み（エコシステム）の創出がどれだけ促進されたかに対する評価、この3要素が評価の大枠と言える。
- 法律が見直される5年後の成果に関する記述ぶりについては、内容や構成を含めて整理の再検討が必要である。
- カタカナ用語は極力減らすこと、及び誤解のもととなるような言葉遣いには留意すること。

<議事3 その他>

- 堀内座長から、アドバイザーグループとして第7回休眠預金等活用審議会にて発表する予定の内容について共有された。